主将あいさつ

61 期　山本 球

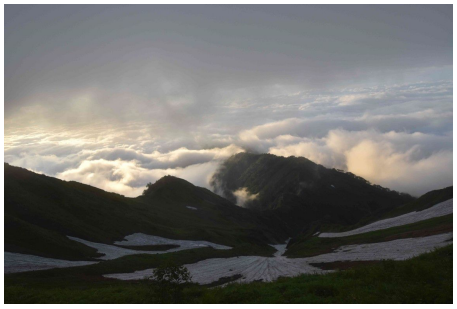
こんにちは、今期部長の役職に就かせていただくことになりました、61 期の 2 年山本球と申します。今期 1 年、金大ワンゲルの長として、非常に責任重大で自分に務まるものなのか不安ではありますが、精一杯頑張ります。

今期も多くの新入部員が入部してくれ、嬉しい限りです。少々多すぎるくらいで全員と親交を深められないほどですが、みな個性的で毎週部活に参加するのが楽しみなほどです。

さて、今期の 10 月に 3 年生の先輩方から役職を引継ぎ、部活の最高学年となった我々2 年生はだいぶ人数が多く、僕よりも優秀な人材揃いです。そこで、現在、決して技術も体力も高いとはいえないワンゲルの状況を少しでも打破すべく、部活に還元可能で部員の技術向上に役立つ知識や技術をつけるために講習会参加や免許取得を推奨し、費用を部活から補助するという方針が決定しました。また、現在協議中あるいは試験段階であり、実現や実用が可能かどうかはまだ確定ではありませんが、部活で行う登山の安全性を向上させるための対策と、もし事故が起きた時に対応可能なように遭難事故対応マニュアルの作成に取り組んでいます。僕は高校でも山岳部に所属していたため、わずかながらも一日の長があることを活かし、同期や、先輩方、時には後輩の力も借りながら、いつまでも金大ワンゲル部員が山や自然の美しさ、雄大さ、時には恐ろしさを味わいながらも、いつまでも楽しく活動できるように、できる限り努力をしていきたいと思っています。

2017 年度夏合宿報告

今年度は 8 月に全 4 パーティーがそれぞれ、北アルプス、後立山、南アルプス、北海道へ行きました。



夏合宿　北アルプス

62 期　宿南 勇斗

行　程

1 日目　金沢～太郎平小屋
2 日目　太郎平小屋～北ノ俣岳～黒部五郎岳～黒部乗越キャンプ場
3 日目　黒部乗越キャンプ場～鷲羽岳～三俣山荘
4 日目　三俣山荘～三俣蓮華岳～双六岳～双六小屋
5 日目　沈殿
6 日目　双六小屋～槍ヶ岳～槍ヶ岳山荘
7 日目　槍ヶ岳山荘～新穂高温泉～富山～金沢

8 月 14 日から 8 月 20 日の間に夏合宿で北アルプスに行ってきました。僕はこのワンダーフォーゲル部に入るまで登山をしたことがなかったので、合宿というものがどんなものなのか想像もできず、楽しみな気持ちもありましたが不安も大きかったです。でも、夏合宿を終えてみるととても充実した 1 週間を過ごせたと思いました。

個人的に 2 日目の行程が一番きつかったです。合宿の前半なので疲れがたまっていたわけじゃなく予備食を含め食料を多く持っていたので、後半荷物が減る分前半の行程も長いこの日が一番大変でした。トレーニング山行で荷物の中に歩荷を入れて合宿に備えたつもりでしたが合宿の時が一番重く感じたし、また、それでもパーティーの他のメンバーの人達のほうが僕よりも荷物をもっていたので弱音は吐けないなと思いました。

合宿中は天気の良い日が少なく、景色を見ながら登ることがあまりできませんでしたが、その分晴れた日には景色を存分に楽しめたので、登山においての天気の重要性や有難みを実感できました。特に晴れの日の夜に見た星空は今まで見たことがないほど綺麗で忘れられません。

最終日は山を降りるだけでしたが、少しの間先頭を歩かせてもらう時があり、先頭の人は通る道や歩くペースなどいろんなことを考えて歩かないといけないと教えてもらえたし、いままで後ろで歩いているときは何も考えずに歩いていたんだなと実感しました。また、下山したあとに入った温泉はとても気持ちがよかったです。

夏合宿の1週間は終わってみるとあっという間だった気がします。貴重な体験ができた夏合宿でしたが当初の予定ではメンバーは10人で行く予定でしたが最終的には7人で行くことになったので、全員で行けたらもっと良い合宿になったと思うと少し残念に思いました。登山初心者の僕が夏合宿を無事に終えることが出来たのはパーティーメンバーの方々に引っ張っていただいたからです。また、楽しく登山できたのもパーティーメンバーの方々に恵まれていたからです。今年自分がしてもらったことを来年はほかの人に対してできるように山に関しての知識や技術を高めていきたいと思いました。

8月17日　双六岳山頂

8月19日　槍ヶ岳山荘と槍ヶ岳の頂上

夏合宿　後立山

62期　小池 慶哉

大学生となった自分にとって初めての夏合宿ということもあり、高校時代よりもレベルの高い山行をしたいと考えていた自分は今回のこのコースを選択しました。当初の目標としていたコースは具体的には五竜岳～唐松岳～白馬岳といった山々を縦走するコースでした。キレットなどがあり、非常にバリエーションがあるコースであると感じ、出発する前から非常にワクワクしている反面、最後まで自分は踏破することができるのかという不安もありました。

1日目

自分は初めての夏合宿ということもあり、前夜ほとんど眠ることができずに当日を迎えることとなりました。そのため、新幹線に乗るとすぐに猛烈な睡魔が襲ってくることになり、そのまま長野駅までは全く記憶がありません。さらに、白馬までのバスでもずっと眠ってしまいあっという間に登山口についてしまった感じになってしまいました。

玄関口の白馬五竜スキー場から途中の地蔵の頭というところまでは単純なリフトとゴンドラの乗り継ぎであり、美しい山々の景色を堪能することができました。リフトでは通常の高さの半分の高さでの運転となっており、まさしく地面すれすれといった状態でした。その分高原植物とも近くで接することができ、改めて自然の豊かさというものを実感することができました。しかし、この時すでに何となく天気がおかしく、それがこの旅最大の決断に影響を与えるとはこの時まだ誰も知る由がありませんでした。リフトを降りるといよいよそこからが本格的な登山道となっていました。この日の目的地である五竜山荘のテント場が埋まってしまう恐れがあったため、僕たちのパーティーは先発隊と後発隊に分かれることになりました。自分は先発隊としていくことになり先に出発しました。が、まだあまり荷物の重さなどに慣れていなかったことなどもあり。自分も含めすぐにばててしまいました。そのため結局、後発隊にも追いつかれてしまい全員でまとまっていくことになりました。はじめのうちは太陽が出ており非常に暑く大変でしたが、だんだんと登っていくうちに、雲がかかり、途中からは少々肌寒いくらいになりました。そうして何度か苦労をしつつ何とかこの日の目的地である、五竜山荘に到着しました。このころにはもうほとんどガスでおおわれており、五竜岳のみならず、数十メートル先も見えないといった状況でした。テント場も予想通り非常に混雑しており、苦労して何とかスペー

スを確保しました。テントを張り終えるといよいよお楽しみの夕食の時間です。この日は野菜と鶏肉さらにはレモンの入った鍋でどのようなものになるか非常に期待をしていました。しかし、どこかでミスをしてしまい出来上がった料理は、レモンが強すぎて非常に酸っぱくなってしまって食べるのがやっとの代物になってしまいました。しかし残してしまったらだめなので何とか無理して全員完食をしました。そんなブルーな気分になりながら、明日こそ晴れてほしいと願いつつ1日目は終了しました。

2日目

二日目の朝、僕たちの期待は見事に裏切られる形となりました。朝起きると一面真っ白の状態が続いており、景色が何も見えませんでした。そんな鬱屈とした気持ちのまま朝食を食べ、もしかしたら頂上は晴れているかもしれないという期待を抱きつついよいよ五竜岳に登ることとなりました。しかし、進んでも進んでも一向に景色が晴れることはなくそのまま頂上に到着してしまいました。

晴れた日では雄大な北アルプスを一望できるはずが結局何も見えずじまいで終わってしまいました。

山荘に戻ると、荷物をまとめ、先へ進むことになりました。この日は唐松頂上山荘までという今回の行程の中ではかなり楽なものでした。唐松頂上山荘のテント場も混雑すると困るのでこの日も先発、後発に分かれていくことになりました。自分は昨日の経験があったため、今回は後発で行くこととなりました。そうして先発が速いペースで出発すると、その何分か後に出発しました。今回は太陽も出ておらず、比較的にゆっくりなペースであったため、あまりばてることもなく歩くことができました。それでも最後の山荘までの登りは岩場も多く、道も非常に狭いところが多かったため、慎重に進む必要がありました。そうしておよそ二時間ちょっとで目的地にたどり着き、先発隊との合流を果たしました。しかしここでさらに悪いニュースが飛び込んできました。なんと今回の行程で最も気を付けなければならないキレットを進む明日から2日間ほど非常に天気が悪く、雨も予想されていたのでした。さすがに2日間もここで沈殿してしまうと日程的にも非常に厳しくなってしまい、かといって雨の中キレットを進むのは非常に危険なことであったため、僕たちのパーティーは非常に悩みました。その結果、僕たちは下山することを決定しました。一番のメインである白馬岳に登ることなく、非常に残念でしたが、やはり一番大事なことは安全に帰ってくるということだと実感しました。そうはいってもと思い、唐松岳の山頂に登り、いよいよ帰ることになりました。その時、一瞬だけ雲が晴れ、雄大な景色を一望することができました。また、帰りも巨大な雪渓や有名な八方池なども見ることができ、これだけでも山に登ったかいはあったと感じました。そうして再びリフトやゴンドラを乗り継ぎ、全員無事に下山することができました。幸いなことに電車もまだ何本もありこの日のうちに金沢に帰ることができるということも判明しました。

自分たちはその後、ふもとの温泉に入り、駅まで行こうとしていたところ、追い打ちをかけるように雨が降り出してしまいました。正直これが一番つらかったかもしれません。なんとか駅に着き、そのまま電車を乗り継いで無事に金沢に帰ってくることができました。こうして、僕たちの短い夏合宿が終わってしまいました。

今回の山行では、残念なことも多かったのですが、やはり全員安全に帰ってくることが最重要であり、仕方がないことも多かったため、次の機会を期待したいなと思いました。しかし、その中でも素晴らしい景色などをたくさん見ることができ、それだけでも今回の山行の価値があったのではないかと感じました。もし次行く機会があったなら、ぜひとも絶景をこの目に焼き付けておきたいなあと感じました。

夏合宿　南アルプス

61 期　松島 英志

＜1 日目＞金沢～広河原

我々の夏合宿はもともと遅れてしまった発注と台風による配達の遅延により合宿中にパーティーTシャツに腕を通すことがないことが決定することから始まりました。金沢駅にて恒例のお見送りをしていただき、割れた酒瓶とアルコール臭、差し入れのお酒を落としてしまい傷心の後立山Pリーダーに後ろ髪を引かれる思いを押し込め新幹線かがやきに乗り込みました。新幹線にて地図やヘッドランプの入ったリーダーのポーチがないことが発覚するという事件を起こしながらも長野駅に到着。長野駅で普通電車に乗り換え日本三大車窓である姨捨駅の絶景などを眺めつつ灼熱の甲府駅に降り立ちました。その後ジャンボタクシーに乗り予定通り広河原に到着しました。そして明日からの天気に一抹の不安を抱えながらも無事と言えるか曖昧な初日が終わりました。

＜2 日目＞広河原～北岳～北岳山荘

初っ端から 1600mアップというハードな２日目が始まりました。北岳山頂に向かう途中は不安だった天気は晴れており強い日差しの中を進んでいきました。長い樹林帯にうんざりもしましたがそこを越えれば鳳凰三山などを眺めることができ順調なスタートを切れたように思いました。ですが、肩の小屋に向かうあたりから雲が迫りはじめ、肩の小屋からは完全に雲の中に入ってしまいました。これ以降しばらく雲が晴れることはありませんでした。せっかくの山頂でも景色を拝むことはできずこの日は北岳山荘まで下り傾いたテントの中で就寝することになりました。

＜3 日目＞北岳山荘～農鳥岳～農鳥小屋

この日も引き続き雲の中での行動となりました。一度農鳥小屋でテントを張りサブザックで農鳥岳へと向かいました。時々現れる雲の切れ目に一喜一憂しつつも結局晴れることはなく、ここまでの山行でたびたび休憩をともにした北海道のおじいさんに山頂で別れを告げました。その後、まさにこの原稿を書いている数日前にそのおじいさんからブドウが届きました。閑話休題、お昼ごろには小屋に戻り、明日こそは晴れることを願いのんびりと過ごしました。私は山で過ごすこの時間が結構好きです。

＜4 日目＞農鳥小屋～間ノ岳～長衛小屋

朝起きてテントから顔を出したとき、煩わしかった雲は眼下にありました。高揚を胸に朝食を済ませ間ノ岳へと向かいました。昨日歩いてきた道はこんなだったのか、北岳はそこにあったのかなんてことを考えながら昨日とは一変した景色を楽しみました。個人的に念願だった富士山を遠目に拝むこともでき大満足でした。ですが、間ノ岳山頂を過ぎ、小屋に向かう道中でメンバーの１人が浮石に足を取られ捻挫してしまったことなどにより日程に遅れが生じました。ちょうど山の日の3連休だったこともありテン場の混雑を想定し、班を二分し体力のあるものを先行させました。先行メンバーの頑張りで何とかテン場を確保することができましたが、メンバーのけがの具合がよくないことから行程を１日減らし次の日に帰ることになりました。そのため最後の晩餐をみんなでわいわい楽しみました。

＜5 日目＞長衛小屋～甲斐駒ケ岳～甲府～金沢

最終日はサブザックを持ち、テントにメインザックとケガしたメンバーを残し甲斐駒ケ岳の山頂へ向かいました。多少雲はありましたが基本的には晴れの中登山の行程は終えることができました。その後おのおの荷造りを済ませバスやジャンボタクシーを乗り継ぎ、途中で温泉にも入り甲府駅へと向かいました。甲府駅では勧められていたほうとうを食べ、お土産も買いました。その後メンバー９人は金沢へ、私は旅行をするために甲府に留まりましたが宿が取れなかったため八王子へ向かいました。一人甲府駅で焦っていた時間が一番つらかったです。

いろいろなトラブルがありましたがそれもひっくるめて夏合宿は楽しいものなのです。来年は最後の夏合宿になります。どんな景色やトラブルが待っているのかとても楽しみです。

4 日目　間ノ岳山頂にて

夏合宿　北海道

61 期　井上 皓介

今回、僕たちは北海道の旭岳（大雪山系）～忠別岳～トムラウシ山～化雲岳といったルートを縦走しました。山に 4 泊 5 日、移動や観光の日を含めると 9 泊 10 日という長期日程で行われた今回の夏合宿、非常に濃密なものでした。その内容をここに書き記します。

＜**一、二日目**＞移動

出発したのは 8 月 19 日の夜、その日に電車で敦賀まで移動し、そこから苫小牧行きのフェリーに乗って北海道へ向かいました。フェリーに乗っていたのは約 20 時間と、二日目の殆どをフェリーで過ごしましたが、フェリーが思いの外豪華であったため、退屈することなく過ごせました。その後は移動し札幌で宿泊しました。

＜**三日目**＞入山～旭岳～旭岳キャンプ場

いよいよこの日から登山開始です。午前中に札幌から旭川、目的の旭岳まで移動し、ロープウェイを経て昼より実際に登り始めました。この山は外国人登山客が比較的多かったですが、行き違う人々は皆日本語で挨拶をしてくれました。ルート的にはシンプルでしたがやはり北海道最高峰とされる大雪山系の旭岳山頂に着いたときの喜びは大きかったです。また、北海道（場所が離れていますが）の高校ワンダーフォーゲル部で登山をしていながら大雪山系に登ったことのなかった自分にとってこれは念願叶った瞬間でもありました。その後山頂を越えた側にあるテント場でテント泊をしました。

＜**四日目**＞旭岳キャンプ場～白雲避難小屋

この日は 5：00 に行動開始でしたが天気が非常に悪く、3 時間半ほど歩いてたどり着いた白雲避難小屋でその日の行動を終了し、沈殿することとなりました。

＜**五日目**＞白雲避難小屋～忠別岳～五色岳～ヒサゴ沼避難小屋

この日は朝 3 時という早い時間に起き、4 時 10 分に行動を開始しました。前日と違って雨は降らず、また途中までは比較的平坦な道が続いていたため行動自体の苦痛は殆どありませんでした。またこの日は特に北海道の独特な山の風景を体感することが出来た日で、本州の山との違いを改めて感じました。目的の避難小屋が見え、もうすぐ到着と誰しもが思ってから実際に到着するまでが長く、この日の難所でした。

＜**六日目**＞ヒサゴ沼避難小屋～トムラウシ山～ヒサゴ沼避難小屋

この日は前日同様の時間に起床・行動開始し、旭岳と並んで今回の合宿の目玉であるトムラウシ山のアタックに臨みました。道の大部分が岩場で、岩の上を渡って歩いて行くような行程でした。登り途中は強風が吹きあれ、また雨も降ってきま

したが山頂では奇跡的に晴れ、辺り一帯の景色を堪能できました。本来であればこの日にそのまま一度下山し、一日休み＋移動に使った後に十勝岳に単発アタックするという予定でしたが、不慣れな岩場道等の要因でトムラウシアタックに思いの外時間がかかったこと（地図記載タイムの約1.5倍)、再び雨が降ってきたことから下山を諦めもう一日ヒサゴ沼避難小屋に宿泊することとなりました。この合宿で隊列の先頭を歩いていたのはこの日を含め終始自分でしたが、この日の行程において不慣れであったとは言え岩場でもたつきすぎたこと、またそれ以外の平坦道ではメンバーの体力を信じ切れていなかった節がどこかにあって時間のことを考えずに遅いペースで歩いてしまった事で予定変更を余儀なくされ、結果的に十勝岳に行けなくなってしまった事を考えると非常に悔しさを感じた日でした。

＜**七日目**＞ヒサゴ沼避難小屋～化雲岳～天人峡温泉

この日も前二日と同時刻の起床・出発。前日小屋に戻った際、この日どのくらいのタイムを目標に下山するかということを2年生で話し合い、それを意識して臨みました。この日は終始雨で、しかも「アジア一の悪路」とも呼ばれるまるで川のような道をひたすら歩く行程で、間違いなく今回の合宿で最も過酷な日だったと思います。これまでの疲労が蓄積し、また度重なってきた雨の影響でメンタルもボロボロになっていましたが、どうにか決めたタイムで降りること、また早くこの雨や悪路から抜け出したいという思いからこれまでの行程と比べてかなりペースを上げて歩き、11:30にゴールの天人峡温泉につきました。その後入った温泉はボロボロになった心身を一気に全快近くまで回復させるレベルで気持ちよかったです。その後は移動し、富良野のキャンプ場で反省会などを行って過ごしました。

＜**八、九、十日目**＞移動、観光

残りの日程は観光と移動でした。観光はファーム富田や旭山動物園といった観光地に行ったり、旭川でジンギスカンを食べたり、札幌で小一時間ほど各々自由に巡ったりといった感じでした。そして再び苫小牧からフェリーに乗り敦賀を経て金沢に帰ってきました。

去年の夏合宿の時は自分はまだ1年生で基本的に先輩方を頼りにしていれば大丈夫と正直思っていましたが今年は後輩がおり、自分達2年生も合宿を引っ張っていくメンバーだということを考えさせられることが多々あり、またリーダーも2年生が来年最高学年になったときのことなどを考えて判断を委ねてくれたりとそういった面でもよい経験でした。またこの合宿を終えて、自分はやはり山が好きだということを改めて感じました。来年は自分達が最高学年として夏合宿を組み立て、引っ張る事になりますが、後輩達に山の魅力をはじめとした様々なことを教えつつ、今年に負けないくらい最高の夏合宿にしたいです。

現役部員一覧

3回生

梅北 浩志諒	岡本 佳乃子
清水 大輔	竹下 あかね
松山 諒佑	村居 龍樹

2回生

天木 智晴	井上 晧介
内田 大智	亀谷 英太
坂田 瑞希	少路 拓洋
鈴木 桃世	藤堂 要
中村 亮	松尾 優海
山本 球	横町 航平
和田 友紀乃	渡邉 哲矢
松島 英志	

1回生

大石 赳瑠	笠島 聡一郎
木村 聡志	小池 慶哉
後藤 龍佑	宿南 勇斗
成田 純佳	長谷川 舜弥
宮島 明	村井 龍之介
守田 昴樹	森田 岳斗
吉田 優輝	山口 渓太郎
川腰 侑椰	墨屋 健太郎
由利 直樹	